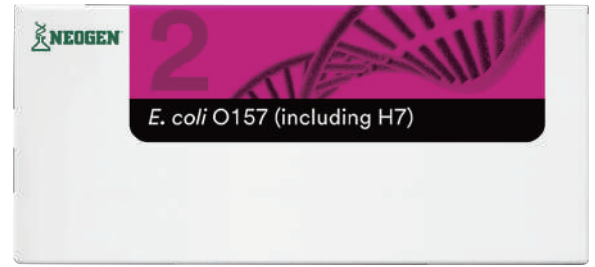


病原菌検出アッセイ2

E. coli O157 (H7を含む) 用

独自の検出テクノロジーによって、
よりシンプルな手順、より短い測定時間で
E. coli O157 (H7 を含む) を検出できるようになりました。



「食品衛生検査指針 微生物編 改訂第2版 2018」に
記載されている妥当性確認された腸管出血性大腸菌の試験法です。



食品衛生
検査指針
収載



AOAC
OMA



AFNOR
Validated
Method

特長 1

ライシス液及び試薬の改良により、陰性までの測定時間が
60分まで短縮され、迅速に試験を実施できます。

1 《増菌》



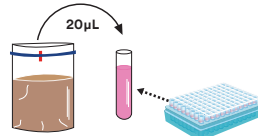
41.5 ± 1°C
8~24時間

2



ライシスチューブは使用する前に
室温に戻し転倒混和してください。

3



増菌培養後、ライシスチューブに
20µL 移し替えます。

8~24時間

4

00:15:00

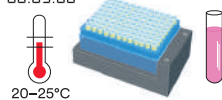


99-101°C

ライシスチューブを100 ± 1°C、
15分間加熱します。

5

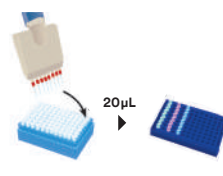
00:05:00



20-25°C

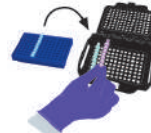
20~25°Cで
5~10分間冷却します。

6



上澄みを試薬チューブに20µL 移し替え、
ピペットで5回チューブ内の液を攪拌さ
せます。付属のキャップでシールします。

7



スピードローダートレイに
チューブを移し替えます。

8

00:60:00



スピードローダートレイを機器
にセットし、スタートさせます。

60分で陰性判定

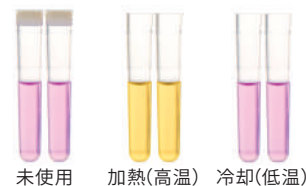
最短15分で陽性判定

2時間以内

特長 2

色変化による目視確認や誤判定を防ぐテクノロジーで、
よりシンプルな操作を実現します。

- ライシス液の加熱処理の状態が、試薬の色変化によって目視で確認
できます。(低温:ピンク色、高温:黄色)
- 独自のテクノロジーによりライシス液の加熱時に試料中の夾雑物が
自然に取り除かれ、誤判定を防ぎます。



未使用

加熱(高温)

冷却(低温)

加熱、冷却時は
キャップ不要です。

病原菌検出アッセイ2 *E. coli* O157 (H7を含む)用

キット内容

- 1 試薬チューブ
- 2 ライシスチューブ
- 3 試薬チューブ用キャップ
- 4 陽性コントロール(8本/袋×2)

※陰性コントロールは含まれていません
※陰性コントロールとして、滅菌済みのハーフ
フレーザーブロスなどを使用します



※製品パッケージは予告なく変更する場合があります

ご準備いただく培地

緩衝ペプトン水 (BPW-ISO)

- 培養時間: 8~24時間
- 培養温度: 41.5±1.0°C



試薬 培地

製品番号	製品名	サイズ・容量	保存条件
MDA2ECO96	病原菌検出アッセイ2 <i>E. coli</i> O157 (H7を含む)	96 ウェル/キット	2 ~ 8°C
MDMC96AP	マトリックス コントロール 病原菌自動検出システム用		
BPW500	緩衝ペプトン水 (BPW-ISO)	500g / 本	15 ~ 25°C

NEOGEN、ペトリフィルムは、Neogen社の商標です。

ネオジェンジャパン株式会社

<https://www.neogen.jp/>

NEO-226-A(0624)e.

Please Recycle. Printed in Japan.
© Neogen Corporation. All rights reserved.